



子育てチャンネル

生活の安定を心の安定に

私は東京の児童養護施設で約10年間働きました。さまざまな家庭環境で育った子供たちとの関わりの中から感じたことは、自己肯定感の必要性でした。

「ありのままの自分」を無条件に受容してもらえない環境で生きてきた子は、自らに自信を持てず、他人だけでなく、自分をも大切にできないことが多かったからです。私たち職員が最初にしたことは、その子たちのために生活環境を整えることでした。生活の安定は心の安定をもたらし、自信の回復や社会とつながるきっかけになるからです。職員との安定した関わりを通して自己肯定感を持ち、自分と他者を少しでも信じていることができるようになってきました。それがこの仕事のやりがいでもありました。

とはいうものの、安定し

た関わりを持つには多くのエネルギーと時間が必要でした。職場は家に帰れない子供たちが生活する場でもあるので宿直や夜勤業務が多く、自宅と施設との二重生活でした。この10年間は、妻が家事と3人の子育てを一人で頑張ってくれていました。



気がつけば、仕事に疲弊した私と、家事・育児に疲れた妻がいました。自分の家族とほとんど向き合えないことに矛盾を感じていました。妻の不調をきっかけに、真剣に足元を見詰め直しました。そして仕事を辞めてこの地に移住する決意をした

のです。

家で仕事をするようになった今、これまでの経験を生かしてわが子の育てに奮闘中です。今まで不規則な生活だったので、生活環境を整えることを目標にしています。早寝・早起きを心がけ、朝晩は家族そろって食卓を囲みながら会話を楽しみ、一緒に風呂に入ります。相撲をとって遊んだり、本を読み聞かせたりと、積極的に子供達と関わるようにもしています。些細(ささい)なことですが、このような生活を送ることで子供たちの心も安定してきているようです。また、妻とは仕事と育児、

朝晩は家族そろって食卓を囲みながら会話を楽しみ、一緒に風呂に入ります。相撲をとって遊んだり、本を読み聞かせたりと、積極的に子供達と関わるようにもしています。些細(ささい)なことですが、このような生活を送ることで子供たちの心も安定してきているようです。また、妻とは仕事と育児、

そんな父親の思いとは裏腹に、2歳の愛娘には「クサイ」「チューしないで」と嫌がられ、しばらく立ち直れませんでした。そんな姿を近くで見ることができるようになりました。パパの努力もまだまだです。

ウィラ・ニセウコロコロオーナー

正垣智弘